

平成  
29  
年  
度

# “いじめ・非行をなくそう” やまがた県民運動の取組み

## 平成29年度 いじめ防止 優秀標語

「いじめ防止」標語を募集したところ、県内の小・中学校から計53,116件の応募があり、下記4作品が見事優秀賞に輝きました。作者は10月22日に庄内町文化創造館「響ホール」で開催された青少年健全育成県民大会において表彰を受けました。

村山  
地区

ぼく決めた 見て見ぬふりは もうやめる

寒河江市立高松小学校 5年 工藤 昂也 さん 作

最上  
地区

「うんとこしょ!」「どっこいしょ!」 みんなでぬこうよ いじめの根っこ

最上町立向町小学校 1年 大沼 叶夢 さん 作

置賜  
地区

「いっしょにやろう」のひとことで かわるみらいがきっとある

南陽市立中川小学校 2年 鈴木 優斗 さん 作

庄内  
地区

忘れない いつも心に 思いやり

鶴岡市立朝陽第二小学校 4年 加藤 千紗 さん 作

## 児童の性的搾取等の防止に関する研修会



9月19日、県警察学校において、深刻化している児童ポルノの製造や児童買春をはじめとする児童の性的搾取等(子供の性被害)防止対策を推進するため、警察庁少年課性的搾取対策官天野賀仁警視正を講師に招き、「児童の性的搾取等の現状と課題」に関するご講演をいただきました。今後、子供の性被害の現状を共有し、官民一体となつた取組みを一層推進することとしています。全国的にインターネットのコミュニティサイトを利用して性被害に巻き込まれる児童が増加しています(その中でもサイトにアクセスした端末はスマートフォンが大半を占めています)。ネットの利用方法について家庭内でルールを作り、フィルタリングを設定するなどして子供の性被害防止に取り組みましょう。

## 平成29年度 いじめ・非行をなくそうポスター

「いじめ・非行をなくそう」やまがた県民運動の周知・啓発を図り、また「いじめ防止」優秀標語を広く県民の皆様に知っていただくために、県内の高校生を対象にポスターデザインを募集し、作成しました。



いじめや孤独を感じているピエロと手を差し伸べる女の子を、かわいい人形で表したデザインです。

学校法人九里学園 九里学園高等学校1年 山田 亜未 さん 作

## 青少年の健全育成セミナー インタビュー

interview  
インタビュー  
1

### ● 講 師

やすかわ まさし  
**安川 雅史 氏**



昭和63年大学卒業後、北海道立の高等学校、私立高等学校に勤務。平成18年に全国webカウンセリング協議会理事長に就任。ネットいじめ・ひきこもり・少年犯罪問題に取組む。全国各地で講演会や研修会を行い、受講者数は40万人を超える。

interview  
インタビュー  
2

### ● コーディネーター ● 事例発表者



写真左から

藤田 浩司 氏 (村山市青少年育成市民会議幹事) [村山地区]

小松 功 氏 (真室川町青少年育成推進員・代表) [最上地区]

遠田 健一 氏 (県庄内教育事務所エリアスクールソーシャルワーカー / 酒田人権擁護委員協議会会長) [コーディネーター]

齋藤 芳明 氏 (前米沢市立南原中学校父母と教師の会会长) [置賜地区]

大江山 守 氏 (鶴岡市青少年育成市民会議 / 鶴岡市教育委員会青少年育成センター主査) [庄内地区]

Q 今回のセミナーは、いじめや非行の未然防止に向けて、各地区の事例検討会が行われましたが、コーディネーターとしてどのような感想を持ちましたか?

コーディネーター 遠田 健一 氏

A 地域の人材というのは、いわば資源なんですね。いい資源をいっぱい持っているところは、それを活用すればいいものを出力できます。出力するための人集め、材料集めを今日発表なさっている方たちが担ってくださっているわけで、代表として発表してくださったことが本当にありがたかったし、今日の発表は子どもたちの育成に関わる皆さんのが役に立ったのかなと思います。

## 講師からのメッセージ

今や子どもから大人まで、幅広い世代が活用しているスマホ。しかし、便利だからこそ依存性も高く、親自身が友達とLINEのやりとりをしながら食事をしているケースもあります。子どもは親の行動を『お手本』としてよく見ていますから、親がそんな行動をしていては、子どもに注意しても『ママだってやってるじゃん』と反発されて示しがつきません。『ご飯の時はスマホ持ち込みますに、家族で顔を合わせてご飯食べようね』と決めて、親子のコミュニケーションの時間を確保しましょう。

親子のコミュニケーションの時間があると、子どもの異変やSOSにも気づくことができ、いじめやトラブルに早く対処できます。

Q 活動を通して日々感じていること、今回他地区的発表を聞いて感じたことなどを教えてください。

事例発表者 藤田 浩司 氏

A 他の地域の方も考えていることはおおよそ共通しているなというのが第一印象です。私が学生の頃は、先輩から教えてもらったことを後輩へ教えるのが普通で、そういったことが、高齢者から子どもまで広がり、連綿とつながっていくことが重要なと思います。地域の皆様に世代間交流の重要性をもっと浸透させていけるような仕掛けを考えていきたいですね。

事例発表者 小松 功 氏

A 子どもたちもその親も全体的に人数が少くなり、活動が大変になってきていると感じます。我々は子どもたちと話し合いをするだけでなく、高校生と町のイベントに参加したり、町内施設の清掃をしたり、実際に何か行動をしようと活動を進めてきました。今日のセミナーで実際に子どもと一緒に活動することが、間違っていたと再確認できましたね。

事例発表者 齋藤 芳明 氏

A 子どもとその親の数が少ない中で行動するには、大人に無理にでも職を与えて、引っ張り込んでやっていく必要があります。触れ合いのきっかけをつくるために、大人が提供して、子どもに参加してもらい、その子どもが大人になったときに、またそういう環境を子どもに与えていく。そういう連鎖反応をずっとつないでいくのが非常に大事だなと感じました。

事例発表者 大江山 守 氏

A 少子高齢化に加え若者の都心への流出により地域の衰退が懸念される中、これらを食い止めるためには、子どもたちの愛郷心の醸成が大切と感じています。

青少年ステージパフォーマンスを通して、今後、高校生が、地域と深く結びつき、郷土を愛し、将来の担い手として活躍することを期待したいと思います。